

令和元年度（平成31年度）芸術表現企画事業費採択課題一覧（公表）

No.	研究者		研究（制作）課題	事業成果（概要）
	所属	氏名		
1	大学院複合芸術研究科	服部浩之	秋田芸術遊覧記：プロセスを開き、つくり方をつくるプロジェクト	<p>本事業は、具体的な成果が見えにくいアートにおける「プロジェクト」を参加と共有のためのプラットフォームと定義し、現代アート自体を地域社会に積極的に開いていく方法を探求する実験である。</p> <p>2020年度に、秋田公立美術大学と秋田県立近代美術館の連携企画として、秋田県立近代美術館を会場に「ARTS & ROUTES - あわいをたどる旅-」展を開催する。この展覧会に出展する本学教員を中心とした「表現者」たちによる新作作品制作や調査研究活動ひとつひとつを「プロジェクト」と定義し、2019年度一年間をかけて公開リサーチ、フィールドワーク、レクチャー、プレ展覧会など多数のパブリックプログラムを実施することで、プロジェクトの過程に地域の人々の積極的な参加を促し、活動の普及と理解の促進を目指す。さらにその過程をまとめて定期発行する「JOURNAL」を作成し、本学の先進的な活動を広く配信・記録する。 広報効果が期待できる。</p> <p>本事業は、菅江真澄（1754～1829年、紀行家、博物学者）が秋田を中心に東北全土を歩き残した文化風俗に関するスケッチや言葉を一つの「表現」と捉え、真澄の活動を芸術という観点から再考するプロジェクトを起点とする。それを受けて、秋田公立美術大学の教員・助手、学生や外部のアーティストによる新作制作プロジェクトを展開。</p> <p>2019年度は、「旅と記録と表現」というテーマから菅江真澄研究会や秋田県立博物館などと本学教員らが連携し菅江真澄の活動を研究し、公開のフィールドワークや勉強会を行った。また、2020年の展覧会に向けてアーティストたちは作品制作のプロセスを「JOURNAL」の発行やプレ展覧会、オープンディスカッションを通じて他者と共有し、相互理解を深めた。作品制作自体をオープンにしていくことは、美術大学の学生教育と地域貢献の両方へとつながる芸術領域を拡張する試みとなった。また、プロジェクトのひとつとしてNPO法人アーツセンターあきたとの共催で、学生がキュレーションを実践的に学ぶ「展覧会ゼミ」を開催。プレ展覧会実施に向けて、作家選定や展示コンセプトづくり、展覧会の運営実施までをアーツセンターあきたのスタッフと共に行い、プロセスを重視した実践の場の提供を行った。招聘作家との作品制作を通じて多くを学ぶ機会となった。</p> <p>2020年度は、これらの取り組みを継続的にいながら、各プロジェクトを美術館での展覧会へと定着させることを目指す。</p>